

## 国際会議飽和時代のIAGA活動

### IAGA activities in the era of too many international conferences

\*家森 俊彦<sup>1</sup>

\*Toshihiko Iyemori<sup>1</sup>

1. 京都大学

1. Kyoto University

21世紀に入り、AGUだけではなく、EGU やAOGSなどの国際学会が大規模化し、世界の研究者にとって、主要な研究発表の場となった。科学研究費による外国出張が容易になったことも相俟って、我が国の地球電磁気学・超高層物理学分野の研究者の多くは、最先端の研究情報の発信と収集のため、これらの会議に出席・発表する傾向が強まった。これらの大規模学会だけではなく、テーマ毎あるいは、分野横断型の国際会議の数も多くなり、かつてIAGAが地球電磁気学・超高層物理学分野の各国の代表的研究者が一堂に会する国際学会として果たしてきた役割も変化せざるを得ない。発表では、21世紀に入って以降のIAGA活動および我が国の貢献について振り返る。

キーワード：地球電磁気学・超高層物理学、国際学会

Keywords: geomagnetism and aeronomy, international conference